

## 新 年 の ご 挨 拶



会 長

上ノ町 仁

新年明けましておめでとうございます。

先生方におかれましては、ご家族をはじめ職員の皆様とともに、清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年もコロナに始まりコロナに終わった年でした。第5波のそのすさまじい勢いに医療提供体制の逼迫を経験し、それに立ち向かうべくホテル療養の拡充、ワクチン接種の促進とカクテル療法など治療体制を確立し、皆で力と知恵を集結しなんとか抑え込みました。先生方のご協力とご尽力に心から感謝申し上げます。第5波を教訓に第6波への備えを十分に行い、第6波を来さぬようさらに感染拡大防止策に努め、今後治療薬が開発されることで、今年はコントロール下での一年であることを願うところです。

昨年のスポーツ界では、4月に松山英樹がマスターズで日本人として初のメジャー制覇

を果たし、10月にはさらにZOZOチャンピオンシップを制しメジャー7勝目を飾り感無量でした。また、中止や延期の声も上がる中、厳密なコロナ対策で東京2020オリンピック・パラリンピックが成功裏に終了。選手の美技に酔いしれ、懸命に競技に取り組むその熱い姿に感動をもらいました。それと昨年は何と言っても「オオタニサ～ン」の大谷翔平が大リーグでリアル二刀流の大活躍、そして満票で最高栄誉のMVP獲得。こちらもまた我々にとって日本の宝、至極の喜びでした。今年の活躍も楽しみですね。

一方、自然界では、「8月の梅雨」や10月でも30℃を越す暑さなど、地球温暖化の影響とも思える異常気象を経験しました。この現象は二酸化炭素の濃度上昇が原因であると、科学的に解き明かした眞鍋叔郎博士がノーベル物理学賞を受賞されたのは、日本人としても誇らしいことで、何事にも「好奇心」をもって取り組むとの言葉が印象的でした。

さて、鹿児島市医師会に視点を移しますと、共同利用施設である鹿児島市医師会臨床検査センターは、新臨床検査センターとして令和3年1月から運用を開始しております。24時間365日受付し、新型コロナウイルス核酸増幅検査法（PCR、TRC法等）も開始しました。本年は現行のドクター支援システムを新たにバージョンアップさせたVer.2でIT化を促進し、さらなる3S（精度、スピード、サービス）の向上に努め、先生方の診療の一助になればと思うところです。

また、医師会病院はこのコロナ下において、先生方のニーズにお応えすべく積極的にコロナ患者さんを受け入れました。コロナ下で見てきたことは、今後医師会病院として「新興感染症等の感染拡大時における医療」の立ち位置を明確にするべきであるという事でした。それを成すべく、先を見据えて地域医療構想調整会議において国の示す医療機関との機能分化・連携、集約化の観点から、あらゆる可能性を否定せずに議論を深めていく所存です。

私は、鹿児島市医師会を運営するにあたり、「会員の先生方のために、そしてその先にある患者さんや市民の健康のために」を基本理念に掲げ、充分に「議」を交わし「和を以て貴しとなす」医師会を目指しております。まさしくこれからウィズコロナの時代、先生方のニーズ、国の示す観点や病院の状況を含めて先生方と大いに「議」を交わし、「和」と「不断の努力」と「覚悟」をもって会員の先生方が納得のいく方向へ進めたいと思います。

また、昨年も市民健康まつりはコロナ下のためYou Tubeを用い開催しました。Web配信により若者の参加者が増加し、関係各位にこの場をお借りして感謝申し上げます。今年は、感染症のコントロール下で対面やハイブリッド形式等これからの時代に即した開催形式で企画し、皆さんの健康づくりに寄与したいと思います。

岸田内閣が発足し初めての総選挙で、自民党が単独で絶対安定多数を占めました。コロナ対策と経済成長の両立を期待するところです。また、2022年度の診療報酬改定の基本方針として、1. 新興感染症への対応、2. 医師の働き方改革、3. 地域医療包括ケアシステムの推進、4. 質の高い医療、5. 制度の安定性・持続可能性の視点が示されました。コロナで疲弊した地域医療を守るためにも、政府との交渉は日本医師会の強いリーダーシップに期待したいと思います。

そして我々は、新年を迎え気持ちを新たに、鹿児島県医師会、各都市医師会や関係機関としっかり連携し、先生方が安心して医療に取り組むことで地域医療を支え市民の方々の健康に寄与できるよう尽力したいと思いますので、本年もどうかよろしくお願い申し上げます。